

中日新聞グループ媒体ガイド2024

中日新聞グループ リソース

中日ドラゴンズ

幅広い世代で人気を集めるスポーツコンテンツ



- 運営／株式会社 中日ドラゴンズ
- 所在地／〒461-0047 名古屋市東区大幸南 1-1-51
- 公式 HP ／ <https://dragons.jp/>
- 営業時間／ 10:00 ～ 18:00
- 本拠地／バンテリンドーム ナゴヤ（名古屋市東区）
※岐阜、豊橋などでも主催試合を行います。

ゲームスポンサー

（株）ナゴヤドームと共同でバンテリンドーム ナゴヤ開催の主催試合のゲームスポンサーを販売しています。試合にスポンサー名を冠表記するほか、期間限定のドラゴンズ商標の使用、入場チケットへのスポンサー名表記ができます。

また、試合当日には、始球式やスポンサーのマスコットと「ドアラ」ら球団マスコットとのグラウンドでの共演、バンテリンドーム ナゴヤに設置された大迫力の106ビジョンやコンコースサイネージなどの各種PR施策が可能です。地元自治体や企業、ナショナルクライアントまで多く利用されています。露出を拡大するため、ゲームスポンサーに合わせた中日新聞や中日スポーツ紙面広告の活用も人気です。

中日ドラゴンズはバンテリンドーム ナゴヤを本拠地とするプロ野球チームで、中日新聞社の子会社である株式会社 中日ドラゴンズが運営。1936年のチーム創設以来、リーグ優勝9回、日本一2回の成績を残しています。東海・北陸地方は熱心なドラゴンズファンが多く、主催試合ではバンテリンドーム ナゴヤを中心に平均約3万人の観客を集めます。AMラジオ局（東海ラジオ、CBCラジオ）では毎試合中継が放送され、在名テレビ局（東海テレビ、CBCテレビ、テレビ愛知、三重テレビ、NHK）でも試合中継やドラゴンズの番組が放送されています。オリジナルユニホームがもらえる「昇竜デー」や女性向けサービス盛りだくさんの「ガールズシリーズ」など様々なファンサービスイベントを実施しファン層の拡大に取り組んでいます。

選手のほかに、高い人気を誇る「ドアラ」「シャオロン」「パオロン」の球団マスコットやキレのあるダンスで試合を盛り上げるオフィシャルパフォーマンスチーム「チアドラゴンズ」などコンテンツが豊富です。

シーズン終了後には、東海エリアの各地各所でドラゴンズ選手を招いたサイン会やトークショーなど、楽しいファンとの交流イベントが催され地域に親しまれています。野球を通じた地域の子どもの健全な育成、スポーツの振興を図るためにNPO法人「ドラゴンズベースボールアカデミー」は愛知・岐阜・三重でのスクール事業や子どもを対象にした野球体験イベントを年間通じて実施しています。

女性や子どもの人気者「ドアラ」

球団マスコットは「ドアラ」、「シャオロン」、「パオロン」。中でも「ドアラ」は奔放な性格と愛嬌のあるパフォーマンスで女性や子どもからも愛されています。イベント出演や写真集・DVDを発売するなど人気者です。

この「ドアラ」をはじめとした球団マスコット、ロゴなど商標利用のプランをご用意しています。企業の商品やサービスの販促活動・キャンペーンの盛り上げをお手伝いします。



バンテリンドーム ナゴヤ

野球に、コンサートに、東海地方屈指の集客空間



- 所在地／〒461-0047 名古屋市東区大幸南1-1-1
- 電話／052-719-2121 (代表)
- URL／<https://www.nagoya-dome.co.jp/>
- 規模／両翼100m 中堅122m フィールド面積13,200㎡
- 客席数／36,398席 (2024年プロ野球時)

バンテリンドーム ナゴヤは、1997年3月にオープンした、中日ドラゴンズが本拠地球場とするドーム型野球場です。東海地区最大級の集客空間で、2023年6月には来場者数累計が1億人を突破しました。運営は、株式会社ナゴヤドームが行っています。名古屋市内中心部から地下鉄で20分程度の郊外に位置し、大型ショッピングセンターが隣接することから、連日多くの人で賑わっており、年間約380万人が来場します。特に中日ドラゴンズ公式戦時の集客は抜群で、シーズン中に約200万人が観戦します。

野球開催時(2024年)の収容人数は36,398人なので、短時間で効率的なプロモーション活動を行うのに便利です。ドーム内では、全長106.56mある大迫力の大型ビジョン「106ビジョン」で、巨大広告(静止画)やコマーシャル映像を流すことができます。さらに、コンコースには66台のデジタルサイネージが設置されており、効果的なプロモーション活動を行うことができます。

プロ野球以外にも、音響、照明、106ビジョン設備をフルに活用した展示会、スポーツイベント、コンサートなど多数のイベント会場として使用されています。

ほかにも、広大な駐車場を有しており、自動車の試乗会や飲食イベントなど、屋外でのイベント開催も可能です。



大迫力の106ビジョン

バックスクリーン上部に設置された106ビジョンは全長106.56mの大型サイズで大迫力。試合開始前やイニング間のCM放映、試合中の大型静止画広告などのメニューがあります。



2階コンコース デジタルサイネージ

コンコースには55インチ66面のデジタルサイネージを設置。試合前、試合後はフルサイズ、試合中は2/3サイズ(下の1/3に中継映像が流れます)。1枠15秒(6分1ロール)。1試合から出稿可能です。



ジブリパーク

スタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設



© Studio Ghibli

- 事業主体／愛知県
- 管理運営／株式会社ジブリパーク（中日新聞社、スタジオジブリが共同出資して設立）
- 所在地／〒480-1342愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1
愛・地球博記念公園（モリコロパーク）内
- 公式HP／<https://ghibli-park.jp/>
- 営業時間／10時～17時（平日）9時～17時（土日休）
- 休園日／毎週火曜（火曜が休日の場合は翌平日）、指定日
- エリア構成・規模／ジブリの大倉庫エリア（約0.8ha）、青春の丘エリア（約0.8ha）、
どんどこ森エリア（約1.8ha）、もののけの里エリア（約0.8ha）、
魔女の谷エリア（2.9ha）

2005年に現在の愛・地球博記念公園をメイン会場に「自然の叡智」をテーマに開催された愛知万博。その公園内に開園したのがジブリパークです。国内外で多くの人たちに親しまれてきたスタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設です。5エリアが公園内に点在し、既存施設や自然と共存するように整備されました。「ジブリの大倉庫」、「青春の丘」、「どんどこ森」が第1期整備エリアとして2022年11月に開園しました。「もののけの里」が2023年11月に、「魔女の谷」が2024年3月に第2期整備エリアとしてそれぞれ開園しました。

「ジブリの大倉庫」はいろいろな“ジブリ”がぎゅっと詰まった屋内空間。映像展示や企画展示、子ども向けの遊び場の他、カフェやショップがあります。『千と千尋の神隠し』の湯婆婆が執務する「にせの館長室」や『天空の城ラピュタ』のロボット兵がたたずむ「天空の庭」などでは作品の雰囲気に浸ることができます。

「魔女の谷」は魔女が登場するジブリ作品をイメージしたヨーロッパ風の空間です。『魔女の宅急便』の「グーチョキパン屋」や「オキノ邸」、『ハウルの動く城』の「ハッター帽子店」や「ハウルの城」、『アーヤと魔女』の「魔女の家」が建ち、「メリーゴーランド」他の遊具、レストラン、ショップもあります。

老若男女問わず楽しく過ごせるジブリパークには国内はもちろんのことジブリ作品の世界観を求めて海外からも多くの方が訪れています。

〈チケット構成〉

予約制で、入場2カ月前の10日14:00発売です。スタンダードチケットは「ジブリパーク大（おお）さんぽ券」で、5エリアに入場し、1日中滞在できます。「ジブリパーク大さんぽ券プレミアム」では5エリアの入場に加え、一部の建物内部も観覧できます。

入場日7日前の17:00発売する「ジブリパークさんぽ券」は「青春の丘」、「どんどこ森」、「もののけの里」、「魔女の谷」の屋外4エリアに入場できます。

中日ビル

名古屋・栄の新たなランドマークとなる国際的な賑わいと交流の拠点が誕生



- 事業主体／中部日本ビルディング株式会社
- 共同事業者／株式会社中日新聞社
- 所在地／名古屋市中区栄四丁目1番1号
- 電話／052-263-7000 (代表)
- 公式HP／<https://chunichi-building.jp>
- 階数／地下5階、地上33階、塔屋1階
- フロア構成／B1～地上3階(商業施設)、4・5階(集客施設・文化関連施設)、6階(多目的ホール、貸会議室)、7階(屋上広場・レストラン)、9階～22階(オフィス)、24階～32階(ホテル)

中日ビルは名古屋の中心部・栄のランドマークとして1966年に開業しました。地下鉄栄駅に直結した抜群の利便性と、劇場や文化センター、ショッピング街、飲食店、催事場、宴会場などをもつ多目的ビルとして長年、栄に賑わいをもたらしてきました。長きにわたり多くの人々が集い、憩い、楽しみ、働き、学ぶ場であり続けた旧中日ビルは2019年にその役割を終え、全面的に建て替えて2024年4月に新たな栄のランドマークとして生まれ変わりました。

33階建てへと高層化し、最新鋭の複合ビルに進化した新中日ビルは「これからも、まちとサカエる。」をコンセプトに、レストランやカフェ、雑貨、レコードショップのほか文化センター、全国の道県事務所など様々なテナントが入り、その数は90を超え、栄に新たな賑わいをもたらしています。高層部にはホテル、6階にはホール&カンファレンスもあり、多くの人々の出会いを創出しています。

中日ビルが主体となり、様々なイベントやコラボレーション企画を実施し、来館者に楽しみや喜び、ときには驚きを数多く提供します。複合ビルの利点を活かしたイベントや独自企画で最大限のPR効果を実現します。



中日ホール

講演会やシンポジウム、展示会、展覧会、パーティーなどに利用できる多目的ホールです。電動移動観覧席や電動昇降ステージ、コンサート用音響設備、オールLEDスポットライトなどの舞台設備も備えており、ライブコンサートなどの実施も可能です。



カンファレンス

大小8室の会議室は会議やセミナー、研修などに利用できます。3室ある大会議室には170インチのスクリーンが備えてあり、大画面でのプレゼンテーションが可能です。ボードルームにはパントリーが併設されており、約90名の懇親会などに利用できます。



中日文化センター

全国屈指の規模を誇る中日文化センター栄を擁するカルチャースクール



- 運営／中日新聞社事業局
- 本部所在地／〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階
- 電話／052-263-7111
- 公式HP／<https://www.chunichi-culture.com/>
- 教室／栄、鳴海、南大高、犬山、高蔵寺、豊田、知立、ぎふ、大垣、津、金沢

中日文化センターは東海・北陸地方に11センターを展開。それぞれが地域と密着しながら時代のニーズに合った講座を数多くそろえ、地域の人々の期待に応えています。

中日文化センターの核となるのが中日文化センター栄です。中日文化センター栄は1966年、名古屋・栄の中日ビルのオープンと同時に開設、中日新聞社が運営する生涯学習の拠点として、約1,000講座、約14,000人の会員を誇る、全国でも最大規模のカルチャースクールです。2018年10月に中日ビルの建て替えに伴い、久屋中日ビルへ一旦移転、その後、新たに生まれ変わり2024年4月にグランドオープンした中日ビルに戻ってきました。新しい施設はオンライン講座にも対応できる一般教室や、壁一面にミラーのあるスタジオルームに加えて、和室や音楽教室、絵画教室も設けられています。会員は40代以上の女性を中心に学習意欲やスキルの上達に熱心で、日常生活をポジティブに過ごしたい活動的な方が多く、女性中心に興味にあったプロモーション活動を行うのに最適です。また、企業とのタイアップセミナーやチラシの設置が可能で、各種講演会、セミナーなどに講師派遣も行っています（いずれも有料）。



企業タイアップ講座

じっくり商品や企業のことを学んでもらうことのできる企業タイアップ講座の実施が可能です。ソフトバンクとタイアップした「スマートフォン体験教室」、補聴器販売会社との「知って安心！聞こえと補聴器」などの事例があります。規模や回数は要相談。



PRチラシ・カタログの設置

1カ月にのべ30,000人が来場する中日文化センター栄をはじめ、各文化センターの受付付近に、チラシやカタログを設置することができます。設置は1カ月単位です。活動的で好奇心旺盛な人の多い文化センター会員に対して気軽に企業の商品やサービスをPR活動できます。



中日病院

医療情報の発信をサポート



- 所在地／〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-12-3
- 電話／052-961-2491 (代表)
- 公式HP／<http://www.chunichi-hp.jp/>
- 診察時間／9:00～、13:00～
- 休診日／第2・4土曜日・日祝日、年末年始、土曜午前
- 病床数／93床 (一般42床、医療療養51床)

中日病院は、1956年に中日新聞社健康保険組合によって開設された病院です。2006年11月に旧所在地から西約320mに移転新築しました。名古屋本社からも徒歩約10分と近くなりました。東海地震への備えから免震、耐震の両構造を併せ持った設計、東海地方では珍しい検査中に映像が見られるMRI室が特長です。最新の医療設備を整えつつ、玄関や待合ロビーなど、随所にスペースが広めにとられた院内は、きれいで、ゆったりとしています。名古屋市医師会の病診連携システムに、名古屋市内32番目の登録病院として承認され、今後ますます地域医療への貢献が図られていきます。

診療科は、内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科の10科。内科では消化器、循環器、呼吸器、糖尿病などの外来予約を受け付けており、整形外科には名古屋手外科センターが併設されています。また、設備が充実した健診センターがあり、健診業務が診療とともに大きな柱になっています。



病院に併設された「健診センター」

健診センターは昭和37年から受診を開始した中日新聞社健康保険組合が運営している施設です。健診フロアは600坪以上の広さを有しており、診察5室、胃部レントゲン6室、胸部エコー7室があり、複数の検査、診察が可能です。脳ドックや胸部CT、血圧脈波検査など各種オプション検査も豊富に取り揃えております。また、レディースコーナーが設けられており、乳がん、子宮がんの検査は曜日を問わず実施、がん発見率は全国平均と比較して高い水準を維持しております。

検査で異常が発見されたときは、病院の外来診療で各分野の専門医による診療を受けることが出来ます。健診センターと外来診療でのデータの共有でスムーズな診療や適切なアドバイスを受けることが可能です。



社会福祉法人 中日新聞社会事業団

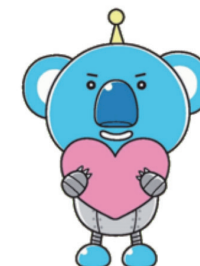
企業のCSR活動の懸け橋にも



- 本部所在地／〒460-8511 名古屋市中区三の丸1-6-1 中日新聞社 1 階
- 電話／052-221-0580 (代)
- 公式 HP ／ <https://chunichi-shakaijigyo.jp/>
- 受付時間 10:00～17:00 (土日祝を除く)
- 支部／北陸支部、東京支部 (東京新聞社会事業団)、東海支部、岐阜支部

社会福祉法人中日新聞社会事業団は、中日新聞社を母体に本部と4支部 (北陸、東海、東京、岐阜) において主催、共催、後援事業を行っています。事業団の歴史は前身である名古屋新聞善行会 (1936年)、翌年設立の新愛知新聞社会事業団 (1937年) にさかのぼります。この間、読者の皆様方の善意により、社会福祉にかかわる様々な社会貢献活動を行ってきました。災害などで大きな被害が発生した場合は、中日新聞社と共同で災害義援金を募集し、被災地支援を行っています。東日本大震災では全国紙を上回る90億円を超える義援金を被災地に届けました。

また、愛知県日進市で児童養護施設と児童心理治療施設を併設した「中日青葉学園」を運営しています。同学園では虐待など何らかの理由で親が養育ができない子どもたちを受け入れています。昨今CSRに対する企業の取り組みが注目されています。幅広い分野において、どのような社会貢献ができるのか、企業の真価が問われています。事業団では、様々な福祉分野に対し支援を展開しておりますので、「CSR事業を展開したいが、何をやって良いのかわからない」「福祉活動を通してCSR事業を行いたいが、実際の福祉現場で必要とされているものを知りたい」などの悩みを抱える企業のご相談にもお応えします。寄付に当たっては、中日新聞でお名前または企業・団体名を掲載します。また、寄付に対し必ず発行される領収書は、社会福祉法人等に対する寄付金として税の優遇措置が受けられます。(税額控除対象福祉法人になっております。)



マスコットキャラクター
「ロボラ」

中日青葉学園

中日青葉学園は被虐待児、引きこもりや不登校など、学校に通いたくても通えない子どもたちの明るい未来を願い、1960年4月1日に虚弱児施設として誕生した児童養護施設です。2003年からは全国でも珍しい児童心理治療施設が併設された複合型施設になっています。企業の社員研修や見学も受け入れています。

所在地／日進市岩崎町竹ノ山149-164



ドラゴンズチャリティプログラム

ドラゴンズチャリティプログラムは、福祉施設の子どもや障がいを持った方をバンテリンドーム ナゴヤでの野球観戦に招待するチャリティプログラムです。中日ドラゴンズの協力を経て、50万円の寄付で60万円分、100万円の寄付で120万円分の野球観戦チケットをプレゼント。プレゼント先の選定はもちろん、企業名の中日新聞への掲載など中日グループならではのサポートで「善意」をつなぎます。また、全てのご寄付に対し発行される「寄付領収書」により、特定公益増進法人への寄付として税の優遇措置を受けることができます。



中日ハウジングセンター

ファミリー層で賑わう住まいの情報拠点



2019年7月にオープンした新・神宮東ハウジングセンター

- 主催／中日新聞社メディアビジネス局 中日ハウジングセンター事務局
- 電話／052-221-1056
- 公式HP／<https://www.chunichi-hc.ne.jp/>
- 営業時間／10:00-17:00
- 定休日／【新・神宮東/岡崎/豊橋/大垣】年末年始
【可児/浜北】年末年始／毎週水曜日（祝日営業）

中日ハウジングセンターは、出展住宅会社のモデルハウスを見学できる中日新聞社直営の総合住宅展示場です。愛知県名古屋市内1会場（熱田区）、三河地区2会場（岡崎市、豊川市）、岐阜県内2会場（大垣市、可児市）、静岡県浜松市1会場の合計6会場で展開しています。構造・工法、二世帯住宅やスマートハウスなどに関する情報ご提供のほか、新築やリフォームなど住宅取得全般に関する各種相談会を実施しています。

また「家を建てると決めた人」に限らず「将来的に家を建てたい」方にもご利用いただけるよう、キャラクターショーやマルシェなど、子育て世代から建替え世代まで楽しんでもいただけるイベントも多数開催しております。

その他に中日新聞社では、一般社団法人ナゴヤハウジングセンターが、愛知県下で運営する総合住宅展示場「ナゴヤハウジングセンター」に共催し、県下5会場の事業、広報活動を通じて運営にも関わっています。



ブース出展やサンプリング

週末などイベント開催時はファミリー層を中心に多くの人々が来場し賑わいます。来場者に向けて、ハウジングセンター会場内へのブース出展やサンプリングも可能です。小さな子ども連れが多いので、子どもに喜ばれるような工夫があると効果が上がります。（内容について、事前に確認が必要です）



センターハウスでのPR

各ハウジングセンターには案内所を兼ねたセンターハウスがあります。センターハウスの中には会議やセミナーができるスペースがあり、商品やサービスのPRイベントの実施が可能です。写真は胡蝶蘭の普及を目指す団体が実施した展示の様子です。センターハウス内にポスターやチラシ・パンフレットを設置することができます。（内容について、事前に確認が必要です）



中日カントリークラブ

中部アマプロゴルフ選手権大会開催コース



- 運営／中日本開発株式会社
- 所在地／〒519-0272 三重県鈴鹿市東庄内町字上宮代1447
- 電話／059-371-1188
- 公式HP／<https://www.chunichi-cc.com/>
- 規模／27ホール、10,411Y、パー 108 〈西コース〉9ホール、3,555Y、パー 36
〈中コース〉9ホール、3,534Y、パー 36 〈東コース〉9ホール、3,322Y、パー 36
- コース設計者／富沢誠造、富沢広親

中日カントリークラブは、中日新聞グループの中日本開発株式会社が事業運営するゴルフ場です。1979年、三重県鈴鹿市に開場。鈴鹿連峰を背景にしたゆるやかな丘陵地で、緑濃い自然条件に恵まれています。全コースフラットで、豪快なショットを味わっていただける一方、程よい変化にも富んでおり、中部アマプロゴルフ選手権をはじめ、プロの試合に応えうるコースでありながら、一般ゴルファーの方々にも、何度プレーしても飽きないと好評です。アクセスも東名阪自動車道「鈴鹿」ICから4kmと名古屋ICからのアクセスが便利。

四季折々の美しい景観のなかで、素晴らしいゴルフライフを楽しんでいただけます。

新聞社との企画ゴルフ大会

中日カントリークラブでは、中日新聞や中日スポーツ主催のゴルフ大会を数多く実施しております。大会によっては、新聞社と共同で企業の協賛を募集しております。ゴルフ大会での賞品提供や商品・サービスのサンプリングなどを通じて参加者へのプロモーション活動を行っていただくことができます。大会に関連してコースに自動車の車両展示をすることもできます。



広いゴルフ練習場

コースボール使用の広大な敷地の練習場も自慢。ドライバーからウェッジまで練習可能で、ドライバーは250yを超える飛距離もOK！

ゴルフクラブの試し打ちイベントなど、ゴルフに関連したプロモーション活動にはもってこいの会場です。また、大きなスケール感を活かしてカルチャースクールのドローン講習会などゴルフ以外の利用実績もあります。



中日新聞フォトサービス

中部地方の歴史を刻み続ける貴重な写真データベース

中日新聞  フォトサービス



- 運営／中日新聞社電子メディア局 企画営業部内 中日フォトサービス係
- 電話／052-203-4500
- 受付時間／10:00～17:00
- 公式HP／<https://www.chunichi-photo.co.jp/>

中日新聞フォトサービスは、中日新聞社（電子メディア局）が提供する中日新聞、中日スポーツ、東京新聞など中日新聞グループ紙に掲載された写真を提供するサービスです。中日新聞社の前身、「新愛知」、「名古屋新聞」だった100年以上前の時代から最新の写真まで、愛知、岐阜、三重の東海三県を中心に貴重な資料写真を多数保有しています。昭和の風景や街の変遷など、社史や記録集、ホームページの制作などに、あるいはイベント会場や店内ロビーなどの写真パネル展にご活用いただけます。料金は個人利用、メディア利用、広告宣伝など用途によって異なります。キャビネサイズの1枚プリントからA4、A3プリントまたはラミネート加工などを取り揃えており、メディア利用、広告宣伝などはデジタルデータでのお渡しも可能です。

但し、ご提供できる写真は、当社の取材写真に限られるほか、中日ドラゴンズ以外の球団及びプロスポーツ選手、芸能人、事件事故の現場やプライバシー侵害にあたる写真、国内外の通信社が配信した写真のご提供できません。また、提供する写真を出版物やHPへ転載、複写する場合は、別途著作権使用料が必要です。



写真パネル展の開催

貴重な過去の報道写真などをパネルにして展示する催事の開催が可能です。豊富な写真の中から様々なテーマに沿った写真パネルを提供します。メディアビジネス局にお問い合わせいただければ、展示解説や写真解説、パネル展の告知まで含めたプランをご提案。施設の歴史を紐解く写真展示や店舗誕生時の世相を振り返る写真展示など、店舗や施設の盛り上げに利用されています。



ドラゴンズ写真

中日ドラゴンズを創設期より取材してきた中日新聞は、中日ドラゴンズ画像の宝庫です。最新のものから往年の名選手、レジェンドらの生き生きとした活躍の様子が記録されています。（商業利用する場合は別途、中日ドラゴンズとの契約が必要になりますのでご相談ください）



出版事業

新聞社の雑誌・書籍の出版事業



〈中日新聞社〉

- 担当部署／名古屋本社 事業局 出版部
- 電話／ 052-221-1714
- 公式HP／ <https://www.chunichi.co.jp/nbook/>

〈東京新聞〉

- 担当部署／東京本社 事業局 出版部
- 電話／ 03-6910-2527
- 公式HP／ <http://www.tokyo-np.co.jp/tbook/>

中日新聞社は書籍の出版事業を「中日新聞社」「東京新聞」両出版社名で行っています。名古屋本社事業局出版部では「中日新聞社」として、「月刊ドラゴンズ」、「月刊グラン」など雑誌を定期発行するほか、連載記事を再編集した単行本など、幅広いジャンルの書籍を発行しています。一方、東京本社事業局出版部では、「東京新聞」として話題の連載記事を書籍化したり、オリジナル企画の書籍を出版したりしています。

月刊ドラゴンズ

「月刊ドラゴンズ」(定価550円)は発行部数8万部で、1983年の創刊以来、迫力ある写真や選手の核心に迫るインタビュー、試合詳報など熱心なドラゴンズファン納得の充実した内容。電子版もあります。広告掲載はメディアビジネス局スポーツ部まで。



月刊グラン

「月刊グラン」(定価700円)は1994年創刊の、名古屋グランパスサポーターマガジン。選手の本音に迫るインタビュー、ゲームレポート、コラムなど盛りだくさんの内容です。Fリーグ(日本フットサルリーグ)の名古屋オーシャンズの情報も載っています。毎月12日発行。広告掲載はメディアビジネス局スポーツ部まで。





中日ツアーズ

中部から国内へ海外へ、中日新聞グループの旅行会社



- 運営／中日企業株式会社
- 所在地／〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1-5-2 中日新聞社北館1階
- 電話／(052) 231-0800
- 公式HP／<https://www.chunichi-tour.co.jp/>

観光庁長官旅行業636号

社団法人日本旅行業協会（JATA）加盟 旅行業公正取引協議会会員

中日ツアーズは1962年に創立した中日企業株式会社が運営する旅行サービスで、2012年に中日旅行会から中日ツアーズに改称、国内旅行から海外旅行まで様々な旅行商品を地域の方へ提供しています。専門分野の講師同行ツアーや写真家同行撮影ツアー、ドラゴンズ観戦ツアーなどテーマ性のある旅行が充実しています。

また、「飛鳥Ⅱ」「にっぽん丸」の邦船から「ダイヤモンド・プリンセス」「クイーン・エリザベス」など外国船のクルーズも幅広く取り扱っており、初めての方も安心して乗船していただけるよう説明会も開催しています。

中日新聞社主催の大相撲名古屋場所開催中には「観戦ランチプラン」、地方新聞社系列の旅行会社でつくる「全国新聞旅行協議会」による限定ツアーなど中日新聞グループならではの旅行企画もたくさんあります。

その他に、ご家族・ご友人同士など少人数での飛行機や列車利用のご旅行ホテルの手配、子供会など地域の行事やバンテリンドームナゴヤでの野球観戦のバス手配などのお手伝いもしています。添乗員を同行させ、旅行中のお手伝いも承ります。



バスツアーや旅行説明会でのPR

中日ツアーズでは、様々な場所やテーマのバスツアーを開催しています。バスツアー内での商品PRや商品サンプリングが可能です。楽しい旅行のひと時でのPRはポジティブな印象が残ります。また、海外旅行などの事前説明会でのPRもご相談可能です。クルーズ旅行説明会でのフォーマルウェアのPRなど実績があります。



中日文化センター人気講師と行く旅行

中日新聞グループのカルチャースクールの中日文化センター講座とのタイアップ旅行の企画ができます。人気講座の先生と学びながらの旅行できる機会は、ファンに根強い人気があります。オペラ鑑賞、美術展、寺院めぐり、海外グルメツアーなどジャンルは様々です。





名古屋グランパス

全国有数の動員数を誇るJリーグの人気チーム



- 運営／株式会社 名古屋グランパスエイト
- 所在地／〒470-0344 豊田市保見町井ノ向57-230 トヨタスポーツセンター内
- 電話／0565-79-8880
- 公式HP／<https://nagoya-grampus.jp/>
- ホームスタジアム／改築中。2026年完成予定（30,000人収容予定）
豊田スタジアム（40,000人収容可）

名古屋グランパスは、名古屋市、豊田市を中心とした愛知県をホームタウンとするJリーグ加盟のプロサッカーチームです。トヨタ自動車サッカー部を母体として1991年に発足、Jリーグ創設当初からの加盟している“オリジナル10”の一つです。2008年より、呼称を「名古屋グランパス」に変更（正式名称は名古屋グランパスエイト）となりました。ホームスタジアムは名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムと豊田市の豊田スタジアムを併用。公式マスコットは、「グランパスくん」をはじめとしたグランパスファミリー。1995年と99年に2度、天皇杯を制覇、2010年には念願のJ1優勝、YBCルヴァンカップでは2021年に初優勝を果たしました。J1へ復帰した2018年シーズンはホームゲーム平均入場者数が2万4千人、翌年の2019年は2万7千人を超え、Jリーグ屈指の集客力をもつ人気チームです。また、次世代の育成として名古屋グランパスサッカースクールを愛知県内に14スクールを展開、幼児から中学生までの子ども達を一貫したコンセプトの下、子ども達にサッカーの楽しさを伝えられるよう指導しています。

なお、中日新聞社は設立時より資本参加、新聞を通じたチーム動向のニュース発信はもとより、名古屋グランパスオフィシャルイヤーブックや月刊誌「グラン」の発行、中日スポーツが総力を挙げて取材した詳細なチーム情報を届けるWEBサイト「Grampus Watcher」(<https://sp.chunichi.co.jp/gra/>)などでチームを盛り上げています。



メニュー満載なPR展開

名古屋グランパスでは、企業PR・社会貢献活動など様々なニーズに活用できるメニューを取り揃えています。試合当日には大型ビジョン、バックスタンドLED、デジタルサイネージ、ピッチ看板や場外ブース、サンプリングなど、企業様の露出やサービスの認知向上などをお手伝いいたします。



中日BIZナビ

東海4県の経済情報サイト



- お問い合わせ／中日BIZナビ事務局
- 電話／ 052-221-0600 (平日10時～16時)
- 公式HP／ <https://biz.chunichi.co.jp/>

中日BIZナビ

「中日BIZナビ」は東海地方の経済ニュースや企業、団体の情報を発信する会員制情報サイトです。ビジネスパーソンに役立つ東海地方のニュースをはじめ、企業トップの会見全文起こしや人事情報、決算情報、倒産情報、おくやみまで、きめ細かに幅広く網羅しています。新聞では読めないオリジナル記事も充実しており、東海地方で企業活動を行う上で欠かせない情報を手に入れることができます。経営者はもちろんのことビジネスの最前線で働く人たちに役立つ情報をネットならではの速報性をもって送り続けています。

中日BIZナビには気になる記事を保存して、あとで資料作成などに使える機能や「地域」、「業界」、「記事ジャンル」、企業・団体名などのワードを指定して検索できるシステムも搭載、営業活動を力強く後押しします。

愛知・岐阜・三重・静岡の70を超える拠点で記者がきめ細かく取材した経済記事は精度高く、圧倒的な量で大手メディアやニュースサイトの追従を許しません。

Lorcle (ロークル)

東海地区の生活密着情報アプリ



アプリの名称は「Local (ローカル)」と「Circle (サークル)」を組み合わせた造語です。

- 担当部署／名古屋本社新ビジネス推進局ロークル部
- 電話／ 052-221-0419

「Lorcle (ロークル)」は中日新聞社が2024年4月からサービスを開始した東海エリアの生活情報をお届けするスマートフォンアプリです。中日新聞からの地域の話のほか東海地方の自治体、企業団体が地元住民向けに生活に役立つ情報を発信しています。

情報発信に参加している41自治体(56県市区町※2024年4月時点)からは災害などの緊急情報や、手続き情報、住民向け生活情報が、企業からはイベントや娯楽、割引券などの情報が提供されています。

デジタル空間に真偽不明な情報が氾濫する中、新聞社と自治体、企業団体が連携して、広域的な枠組みで良質な情報を発信して、住民の暮らしの質を高めることを目指しています。また、各コンテンツの閲覧状況などはビッグデータとして情報発信者である自治体や企業団体にフィードバック。それぞれの情報を質や、発信力の向上に役立てます。